

(別添1)

No.	1
策定年月	令和3年6月
見直し年月	令和4年8月

麦・大豆生産性向上計画

都道府県名:熊本県

1. 麦・大豆の生産性向上に向けた方針

(1) 麦・大豆の生産性向上・産地強化に向けた方針

【概要】

熊本県における麦の作付面積は7,520ha(R3年産)、大豆の作付面積は2,500ha(R3年産)で、主に平坦地域での作付けが多い。

麦・大豆は、ともに水田農業の収益向上に資する基幹作物と位置付けており、米との組合せにより農地・機械施設を有効利用することが可能となることから、地域営農組織や認定農業者等担い手への農地集積による作付拡大と低コスト化を図り、団地化等による生産性向上を進める。さらに、実需者や消費者の求める品種の導入や転換を図り、品質の確保や収量の安定のため、生産技術向上と基本的な栽培技術の励行により、ニーズに対応した麦・大豆生産を推進する。

また、県下の麦産地においては、玉名地域では、追肥、収穫前の葉色測定、区分集荷による実需者の求めるタンパク質含有率の高いパン用小麦の生産が取り組まれている。鹿本地区では、消費者の健康志向にあったもち性大麦の生産が行われ、阿蘇地域では、高冷地域での水田の高度利用のための大麦作付推進と安定生産に取り組まれている。大豆産地においては、上益城地域の嘉島町で、地区を超えた町全域での大豆団地化とブロックローテーションが実施されている。菊池地域では、大津町で集落単位での大豆団地化とブロックローテーションが、熊本地域では、ニーズに対応した小粒の納豆用大豆品種の作付けが行われている。このような取組を優良事例として、生産性の向上、需要に応じた生産を推進する。

【品目別推進方針】

麦については、実需者の要望に即した計画的生産が重要であるため、麦類流通連絡協議会等において製粉業者、精麦業者と連携を深め、品種、品質、価格、生産量などのニーズに即した麦づくりを進める。また、継続的に安定生産できる産地づくりのため、排水対策をはじめとした基本技術の徹底と技術力向上を図る。

大豆については、国産大豆全体の生産拡大が求められる中で、実需者から供給量と価格の安定が強く求められており、主要品種の「フクユタカ」については、排水対策をはじめとした基本技術の徹底と技術力向上により、生産性向上と安定生産を図る。また、納豆用小粒品種等の特徴ある大豆商品ニーズについては、実需と連携した計画的な生産を行う。

(2) 県で推進する団地の基準等

熊本県においては、作業効率等を考慮し、4ha以上の同一作物が作付けされており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地を「団地」とする。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

(麦)

○ 販売予定数量と購入希望数量について

令和4年産の販売予定数量22,368トン(小麦16,211トン、大麦6,151トン、はだか麦6トン)に対し、実需者の購入希望数量は25,355トン(小麦16,871トン、大麦8,478トン、はだか麦6トン)であり、全麦種計で販売予定数量を上回っている。

購入希望数量は令和3年産対比で3,098トン増加しており、麦種別では、小麦で令和3年産対比441トン増、大麦で同2,680トン増、はだか麦で同23トン減となっている。

○ ミスマッチについて

令和4年産全麦種合計で、購入希望数量が販売予定数量を2,987トン上回るマイナスミスマッチとなっている。麦種別では、小麦で660トン、大粒大麦2,329トンのマイナスミスマッチ。品種毎では、特に大麦の「はるしづく」については前年から大幅に購入希望数量が伸びており、このミスマッチ解消が課題である。

(大豆)

熊本県の主要品種である「フクユタカ」は、納豆、豆腐、味噌、醤油、豆乳向けと汎用性が広く、県内はもとより県外へも供給されている。国産大豆の需要は高いが、ここ数年、熊本県では気象変動の影響により単収が低下傾向であり、実需者の求める供給量に安定して応えることができていない状況にある。そのため、実需の希望数量を満たすための生産量の向上と、供給量の安定が課題である。

また、熊本県産「フクユタカ」は、他県産とのブレンドで利用されているため、紫斑病や虫害の混入のない均一な品質の大豆生産が求められている。

(2) 生産における現状と課題

近年、作付面積については、麦はやや増加傾向、大豆はほぼ横ばいで推移している。過去3年間の麦の単収については増加傾向にあるものの、収穫前の降雨による品質低下が生じている。大豆の単収については、播種期の降雨による播種の遅れや生育量の不足により低下傾向にある。

年次による単収変動の原因については、麦では収穫期の降雨、大豆では播種期の降雨の影響が大きい。このことから、降雨の合間でも速やかな作業を可能とするために、ほ場の排水性を向上させることが課題である。また、連作により生産力の低下がみられるところもあり、収量の向上のために、作付ほ場の固定化の回避や、地力の維持・回復が課題。さらに、経営農地が多く、作付ほ場が散在している場合、適期作業の逸失が考えられるため、ほ場の団地化が必要である。

(3)実績

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	シロガネコムキ	(2,381) 2,480	(2,068) 2,152	(2,111) 2,190	(296) 297	(361) 360	(328) 329	(7,041) 7,357	(7,470) 7,747	(6,927) 7,216
	チクゴイヌミ	(941) 980	(1,613) 1,638	(1,598) 1,658	(272) 273	(371) 370	(307) 309	(2,563) 2,678	(5,979) 6,061	(4,910) 5,115
	ミナミカオリ	(1,242) 1,294	(914) 951	(853) 885	(320) 321	(348) 347	(360) 361	(3,978) 4,157	(3,181) 3,300	(3,071) 3,199
	くまきらり	(7) 7	(14) 15	(36) 37	(327) 329	(307) 300	(367) 373	(22) 23	(43) 45	(132) 138
	その他			(1) 1			(199) 200			(2) 2
大麦	はるしずく	(1,327) 1,469	(1,321) 1,456	(1,442) 1,576	(236) 233	(300) 297	(324) 324	(3,127) 3,421	(3,957) 4,320	(4,667) 5,100
	ニシホシ	(167) 185	(159) 175	(181) 198	(155) 153	(259) 257	(202) 202	(259) 283	(412) 450	(366) 400
	その他			(9) 10			(630) 630			(58) 63
はだか麦	イチバンホシ	(25) 27	(80) 82	(46) 48	(192) 191	(203) 203	(143) 143	(48) 52	(162) 167	(66) 69
	ダイシモチ	(122) 130	(61) 63	(93) 98	(177) 177	(300) 298	(120) 120	(216) 230	(183) 189	(112) 118
作物計		(6,212) 6,572	(6,230) 6,532	(6,370) 6,701	(278) 277	(343) 341	(319) 320	(17,254) 18,201	(21,387) 22,279	(20,311) 21,419

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆		(1,991) 2,440	(2,061) 2,430	(2,100) 2,450	(143) 141	(151) 149	(128) 126	(2,846) 3,440	(3,111) 3,621	(2,688) 3,087
作物計		(1,991) 2,440	(2,061) 2,430	(2,100) 2,450	(143) 141	(151) 149	(128) 126	(2,846) 3,440	(3,111) 3,621	(2,688) 3,087

- ※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
- ※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
- ※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1)取組方針

①需要に即した生産と販売の実現

麦については、購入希望数量に対し販売予定数量が不足しているパン用品種「ミナミノカオリ」を令和3年産の約3,000トンから令和5年産で5,000トンまで増産し、実需者の要望に応える。大麦については、健康志向の高まりにより生産が拡大していたもち性大麦品種「くすもち二条」の作付面積は需要を満たすものとなったことから維持し、ミスマッチが生じているうるち性二条大麦の作付面積の拡大を図る。その後も、麦流通連絡協議会での実需者の希望数量に応じた生産を行う。

大豆については、国産大豆の需要が増している中で、大豆の安定生産に向けて、排水対策等の基本技術の励行、適正な防除、気象変動に対応した新品種や対策技術を導入し、単収の向上と生産量の拡大、品質の高位安定化により、実需者の求める数量・品質に対応していく。

②団地化・連担化の推進

熊本県では、以前から団地化及びブロックローテーションに取り組んでいる大豆産地が多く、中には町全域で実施している嘉島町のような事例もある。このような事例を参考に、他地域への波及を図る。また、大豆の団地化に対して産地交付金を支出し団地化を推進している地域協議会が16協議会あり、交付金を活用した団地化への取り組みを支援していく。

一方、麦においては、「麦の団地化」という概念が浸透していないため、「水田麦・大豆産地生産性向上事業」を活用し、麦においても団地化・連反化を意識付け、生産性向上を図っていく。

③土づくり

堆肥等の積極的な投入や、土壌改良剤の施用による土づくりを進め、地力の向上を図る。また、ブロックローテーションや輪作により、栽培ほ場の固定化や連作による収量低下を回避する。熊本県では、麦栽培ほ場の土壌診断100点を実施し、その結果に基づいた適正な土作り・施肥指導を行っており、データ及び分析結果を農家へフィードバックし、生産性向上に資することとし、実需者への高品質での安定した供給体制の構築を図っていく。

④排水対策

ほ場の排水性向上については、額縁排水や表面排水などの基本技術と併せ、弾丸暗渠などの暗渠排水の施工を行うことで、降雨の多い時期であっても、適期の麦収穫、適期の大豆播種ができるほ場づくりに努め、麦・大豆の生産力向上を図る。また、暗渠排水設置から年数が経ったほ場では排水管等の目詰まり等が生じている場合があり、計画的な暗渠排水の設置・更新を行う。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。その他必要な項目を産地の実態に即して記載すること。

※ 都道府県等で開発した技術等に取り組む場合は本項目に技術名を記載すること。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(2) 計画

① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)				令和9年産(目標)				備考				
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)			単収(kg/10a)		生産量(t)	
小麦	シロカネコムギ	(2,111)	2,190	(328)	329	(6,927)	7,216	(1,832)	1,900	(314)	316	(5,760)	6,000	ミスマッチ品種 需要に応じた生産で他品種へ転換
	チクイスマ	(1,598)	1,658	(307)	309	(4,910)	5,115	(1,542)	1,600	(311)	313	(4,800)	5,000	需要に応じた生産により5000トン維持
	ミナカオリ	(853)	885	(360)	361	(3,071)	3,199	(1,446)	1,500	(332)	333	(4,800)	5,000	
	くまきらり	(36)	37	(367)	373	(132)	138	(29)	30	(332)	333	(96)	100	栽培が始まったばかりで栽培面積が小さく、令和2年が豊作であったため。
	その他	(1)	1	(199)	200	(2)	2	(1)	1	(199)	200	(2)	2	
大麦	はるしづく	(1,442)	1,576	(289)	324	(4,667)	5,100	(1,464)	1,600	(281)	281	(4,118)	4,500	令和2年産が豊作であったため、過去3 か年平均単収282kg/10a 令和3年産より一部地域でくすもち二条 へ品種転換
	ニシノホシ	(181)	198	(179)	202	(366)	400	(229)	250	(200)	200	(458)	500	
	くすもち二条	(7)	8	(650)	650	(48)	52	(268)	293	(295)	295	(791)	864	栽培が始まったばかりで栽培面積が小さく、令和2年が豊作であったため。
	その他	(2)	2	(550)	550	(10)	11	(6)	7	(250)	250	(16)	18	栽培が始まったばかりで栽培面積が小さく、令和2年が豊作であったため。
はだか麦	イチバンホシ	(46)	48	(143)	143	(66)	69	(7)	7	(143)	143	(10)	10	現状値は農林水産省統計値から算出。 目標値は流通連絡協議会の数値のみ。 協議会以外の数値は把握が困難 であるため除く。
	ダイシモチ	(93)	98	(120)	120	(112)	118	(14)	15	(143)	120	(17)	18	
作物計		(6,370)	6,701	(319)	320	(20,311)	21,419	(6,839)	7,203	(286)	306	(19,576)	22,012	

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

作物名	品種名	令和3年産(現状)						令和10年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
小麦	シロカネコムギ	(2,173)	2,238	(440)	444	(9,567)	9,945	(1,832)	1,900	(314)	316	(5,760)	6,000	ミスマッチ品種 需要に応じた生産で他品種へ転換
	チクゴイスマ	(1,645)	1,694	(379)	383	(6,241)	6,488	(1,542)	1,600	(311)	313	(4,800)	5,000	需要に応じた生産により5,000トン維持
	ミナミカオリ	(950)	978	(337)	340	(3,198)	3,324	(1,446)	1,500	(332)	333	(4,800)	5,000	
	くまきらり	(40)	41	(495)	502	(198)	206	(0)	0	(0)	0	(0)	0	需要に応じた生産により品種転換が実施される見込みのため
	その他	(1)	1	(1,000)	1000	(10)	10	(30)	31	(199)	200	(2)	62	※面積小さく豊作であったため現状値が大きくなっている
大麦	はるしづく	(1,364)	1,477	(320)	320	(4,368)	4,729	(1,693)	1,850	(281)	281	(4,757)	5,203	R3年産が豊作であったため、目標反収は令和9年産の値を維持する
	ニシノホシ	(228)	247	(205)	204	(345)	377	(0)	0	(0)	0	(0)	0	R3年産は早期入梅の影響により不作であったため、R3年産を除いた3カ年平均(集荷実績が明らかなH30～R2)とした。 また、綿萎縮病対策により、品種切替を実施する。
	くすもち二条	(250)	271	(360)	360	(901)	975	(268)	293	(295)	295	(791)	864	令和3年産が豊作であったため、需要に応じた生産により約900tを維持する。
	その他	(3)	3	(633)	700	(19)	21	(6)	7	(250)	250	(16)	18	
はだか麦	イチバンホシ	(62)	64	(295)	297	(183)	190	(7)	7	(143)	143	(10)	10	現状値は農林水産省統計値から算出。 目標値は流通連絡協議会の数値のみ。協議会以外の数値は把握が困難であるため除く。
	ダイシモチ	(64)	67	(298)	297	(191)	199	(14)	15	(143)	120	(17)	18	
作物計		(6,780)	7,081	(372)	374	(25,221)	26,464	(6,839)	7,203	(306)	308	(20,953)	22,175	

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

作物名	品種名	令和元年産(現状)						令和8年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
大豆		(2,100)	2,450	(128)	126	(2,688)	3,087	(2,100)	2,450	(168)	165	(3,524)	4,050	一括記載
作物計		(2,100)	2450	(128)	126	(2,688)	3,087	(2,100)	2,450	(168)	165	(3,524)	4,050	

作物名	品種名	令和3年産(現状)						令和9年産(目標)						備考
		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(t)		
大豆		(2,120)	2,500	(112)	109	(2,374)	2,725	(2,157)	2,550	(168)	165	(3,629)	4,220	一括記載、作付面積はR8目標値を達成したため上方修正
作物計		(2,120)	2500	(112)	109	(2,374)	2,725	(2,157)	2,550	(168)	165	(3,629)	4,220	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

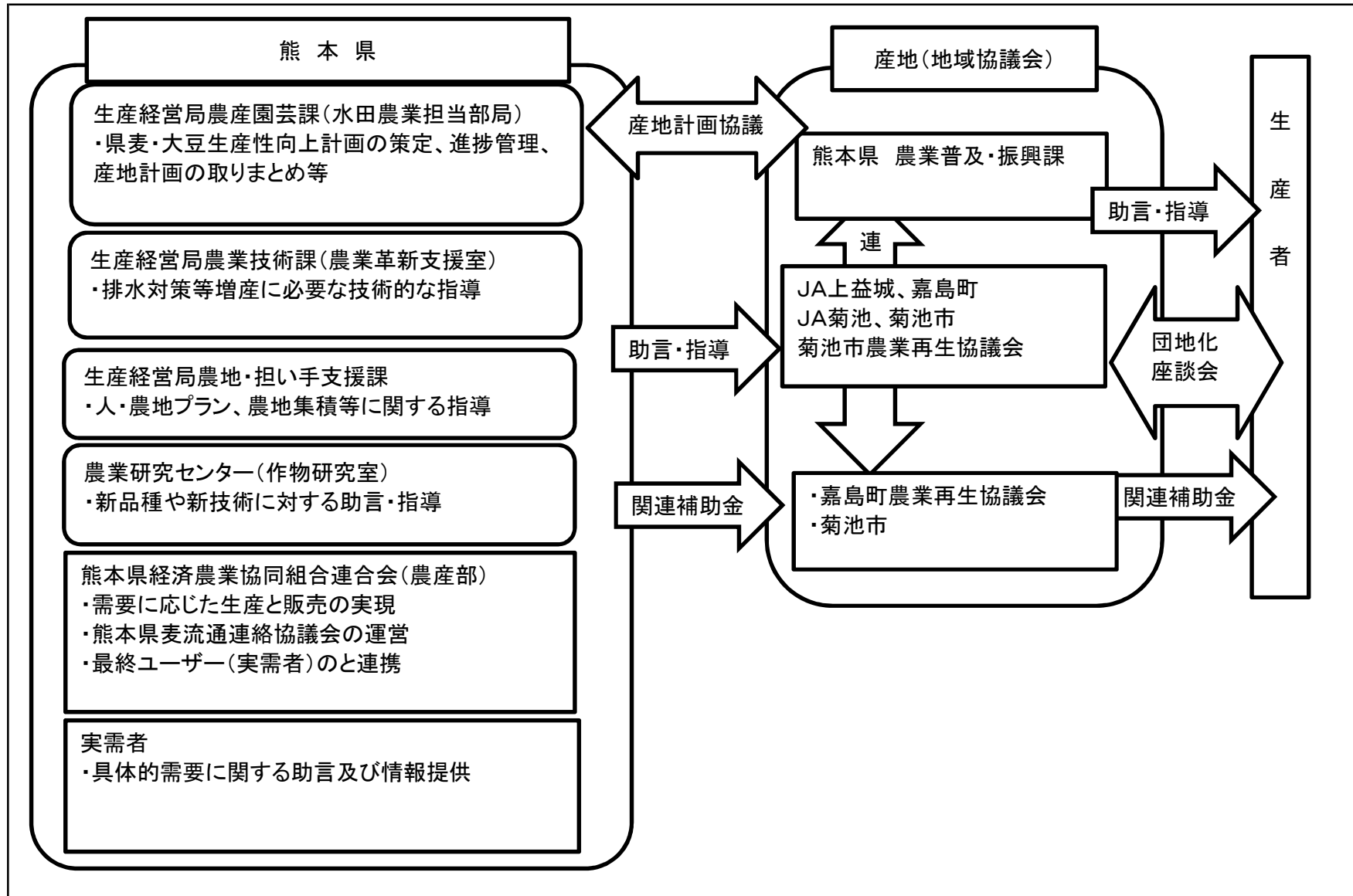
※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 直近年が災害等により直近年の記載が適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

※ 作付面積、生産量以外の目標を設ける場合は適宜行を追加して記載すること。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	熊本県水田収益力強化ビジョン	毎年更新	
2	熊本県食料・農業・農村基本計画	R3年(2月)	
3			
具体的連携内容			
<p>水田活用の直接支払交付金の「産地交付金」の活用(県設定分)によって、水田麦、大豆の団地化や生産性向上を推進することで、生産量の向上及び安定生産につながるよう連携する。</p> <p>※県設定分の産地交付金使途</p> <p>担い手加算(麦・大豆):3,000円/10a(作付け面積の増加と担い手への集積を指標とする)</p> <p>水田高度利用加算(麦・大豆他):3,000円/10a(取組面積と水田利用率を指標とする)</p>			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	嘉島町農業再生協議会、岡・猪の目麦大豆生産組合、農事組合法人走潟

※県段階で想定している事業名について、記載願います。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を入力してください。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

7. 麦・大豆産地生産性向上計画の作成主体

No	作成主体名	関係市町村	活用予定の事業
1	嘉島町農業再生協議会	嘉島町	水田麦・大豆産地生産性向上事業
2	菊池市農業再生協議会	菊池市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
3	宇土市農業再生協議会	宇土市	水田麦・大豆産地生産性向上事業

※ 各主体が作成した「麦・大豆産地生産性向上計画」を添付するものとする。

(別添2)

No.	1
策定年月	令和3年7月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画 嘉島産地 (作成主体:嘉島町農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

嘉島町は、全耕地面積に対して主食米と主たる転換作物である大豆の作付割合が約5割ずつの水田地域であり、裏作として作付けされる麦についても土地利用率180%を超えると高い水準である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要が拡大基調である麦の品種へ生産を移行していく。

現在、嘉島町においては、麦の二毛作や大豆の団地化を水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本地域で生産している品種シロガネコムギは、全量(2,459トン)が日本麺用等として、県内の製粉企業に販売されているが、実需者から熊本県下に対してパン、中華麺用品種ミナミノカオリの生産へと転換を図る需給調整の強い要望がある。よって、シロガネコムギの主産地である嘉島町においてミナミノカオリへの品種転換に取り組み増産を図る必要がある。

・大豆については、主食用米の主たる転換作物としてフクユタカが作付けされており、町全体での団地化計画、ブロックローテーションにより生産している。地元企業による嘉島町の大豆を使用した豆腐が製造されているほか、町の大豆を使用した大豆焼酎「嘉島」は町の特産品として販売やふるさと納税の返礼品となっている。

(2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は麦・大豆ともに横ばいで推移しており、単収は長期的に低下傾向となっている。単収低下の原因として、作付頻度の増加による地力低下等が考えられ、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。また、排水不良も単収低下の大きな要因となっており、引き続き水系を考慮した町全体でのブロックローテーションによる団地化を進めていくことが重要である。

(別添 2)

No.	2
策定年月	令和4年8月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画 泗水町田島産地 (作成主体:菊池市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

菊池市は、畜産が盛んであるとともに、主食用米の主産地として県内有数の水田地域である。

近年、全国的には主食用米の国内需要が減少している中、将来を見据え、主食用米からの転換が容易な米態様の転作作物である飼料用米、加工用米、新規開拓用米の生産を拡大するとともに、戦略作物である大豆の生産拡大も推進していく必要がある。

また、実需者と密接に連帯し、需要の多い品種の導入を検討し、排水対策等の基本技術を徹底することで単収の安定を実現する。

現在、菊池市においては、麦の二毛作や大豆の団地化を水田フル活用の推進により取り組んでいるが、本計画において、生産性向上・生産拡大に係る取組みをより具体化するとともに関係機関と連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

まずは、麦・大豆の生産組合がある泗水町田島地域を産地として設定し、作付けほ場の団地化や生産性向上に取り組んでいく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦について、本地域で生産している小麦(チクゴイズミ)は、全量が日本麺用等(うどん)として、県内の製粉企業に販売されており、大麦の需要も拡大傾向である。しかし、作柄や外麦の影響によって品種ごとの需要が変化していくことから、実需が求める品種の供給を行っていくことが重要である。

・大豆については、主食用米の主たる転換作物としてフクユタカが作付けされており、市全体での団地化計画、ブロックローテーションにより生産している。国産大豆として安定した需要があるが、単収が伸びず契約出荷数量に満たない等の理由により安定供給が課題である。

(2) 生産における現状と課題

麦については近年、排水不良による湿害、土壌酸度の低下により、単収の低下を招いている。そのため、水系を考慮した市全体でのブロックローテーションによる団地化を進めながら効率的な播種技術を取り入れ、面積当たりの作業効率を高めていくことが重要である。
また、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた適期の施肥や土壌改良資材の施用等による地力の回復が課題となっている。
大豆については、地力低下に伴う単収の低下が課題とされているので、土壌改良材などによる改善を行い、生産量の向上を図り産地としての確立を目指している。

(別添 2)

No.	3
策定年月	令和4年8月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画
宇土市走潟産地
(作成主体:宇土市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

宇土市走潟地区は、宇土市の北東部に位置し、昭和40年代に県営圃場整備が実施され、基盤整備はほとんど完了している水田地帯である。

水稲とキュウリやトマト等の施設園芸を組み合わせた複合経営を中心に、農業経営が営まれており、水田面積228haのうち、水稲作付面積は161haとなっている。

認定農業者等の担い手を中心に生産活動が行われているが、農業従事者の高齢化や兼業化に伴い、特に水稲の作付面積は減少傾向となっており、今後は益々の担い手不足や農地の遊休化が懸念される。

今回、本計画において、水田における大豆の団地化を推進し、生産性向上・生産強化に係る取り組みを具体化することで、農業のさらなる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦についてはシロガネコムギが栽培されている。当面は現状の作付け面積を維持し、需要に応じた作付けを推進する。

・大豆については、地元企業により大豆を使用した納豆・醤油・豆腐などの製造が行われている。大豆は近年の作柄が悪い傾向にあり、安定供給が望まれている。走潟地区においては大規模法人を中心として令和3年より大豆の作付けが始まっており、実需の求める安定供給のため生産面積の拡大及び安定生産が課題として挙げられる。

(2) 生産における現状と課題

・麦は主に裏作として栽培されており、近年豊作傾向にあるが排水対策による安定生産が必要である。

・大豆については、主食用米の主たる転換作物として、令和3年度より試験的にフクユタカが作付けされており、今後の生産拡大が必要である。特に、これから作付け面積を拡大するにあたって、大規模法人を核とした大豆生産団地を形成するため、機械等の導入を機とした走潟地区全体での団地化計画、ブロックローテーション、排水対策等による生産技術の導入により生産量の向上を図っていく必要がある。